## 6月　園だより

園長　小西　只剛

### コロナに気を配りながらの安全保育

空気が気持ちよく、外遊びがうれしい5月でした。爽やかな空気の中、本来ならば散歩が気持ちがいい季節ですが、保育園の周りは休校中の子どもたちや親子連れが多く、園外に出るのはリスクが大きく、コロナ感染予防のため、園庭遊びが中心となりました。

緊急事態宣言が解除された後半、午前中はぱたりと人がいなくなり（小中学生たちは課題に追われだしたのか)、幼児クラスは散歩に出かけたりしていました。

5月は、職員はコロナ感染予防に気を配りながら、園舎の衛生管理や子どもたちが感染しないよう細心の注意を払いながら保育を行って来ました。

全国的に緊急事態宣言が解除されましたが、ＷＨＯは「ウィルスが消え去ることはないかもしれない」と指摘しています。感染の第2波がこの先来ないとは限りません。引き続き、細心の注意を払いながら、子どもたちの安全保育を守っていきたいと考えています。

法人としての今後の対応方針現在まとめていますので、出来上がり次第またお知らせいたします。

### 「新しい生活様式」というけれど…。

人との間隔はできるだけ2m（最低1m）は空ける。食事は対面ではなく横並びに座る。テレワークの活用…。新型コロナウィルス感染防止のために打ち出された「新しい生活様式」ですが、子どもたちが生活する保育現場では現実的にはとても難しいです。

保育の現場では、子どもたちを抱っこする、膝の上にのせて一緒に遊んだり、絵本を読んだり、泣いている子を抱っこで受け入れる、手をつないで散歩やじゃれつき遊び…。子ども同士や保育者が密着しあうことは日常茶飯事です。

子どもたちへの食事の対応などもお互いに向き合いながら“あ～ん、もぐもぐ”“おいしいね”と心を通わせながら食事の介助をしていくことは、子どもたちの育ちにとって欠かせない対応です。

また、特に0歳児期は大人の表情を見て、行動に“大丈夫だな”“危ないな”と感じる力を養ったり、様々な感情を学んでいきますが、マスクをした状態ではそういった感情が学びにくいですが、現場ではそうしたことにも気を配って保育をしています。

対大人との関係だけでなく、乳幼児期の子どもたちは友だちと触れ合う中で育ちあっていくもので、学校の授業のように一定の間隔を保って座っていることはできません。

ニュースなどでは、政府が出す「新しい生活様式」のメリットやライフスタイルの変化などは盛んに発信されますが、それができない保育現場などの事も考慮したうえで行動様式を示して頂きたいと思います。でないと､「新しい生活様式」が守られていないという事にもなりかねないと感じています。

### ＜お知らせ＞

登園自粛で出席しなかった期間の保育料及び給食費は、一旦全額を納め、翌々月分以降の利用者負担額との調整となります。5月分の「保育の実施の停止申請書」(0～2歳児が対象）は市から届き次第追って配布いたしますのでよろしくお願いいたします。